土曜 ライフ・楽しむ

わたし色

今年の漢字は「転」その訳は…

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利

2021年、今年の漢字が「金」に決まりました。これまでもオリンピック開催の年は「金」が人気で、今回が4回目の栄冠だそうです。他の年にもあまり縁起の良い漢字が選ばれていないのを見ると、「金」は数少ない希望の星なのかもしれません。

人気の理由が、「東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が活躍し、たくさんの『金』メダルを獲得したこと」に加え、「大谷翔平選手や松山英樹選手、藤井聡太棋士らがたくさんの『金』字塔を打ち立てたこと」などが挙げられています。

ただ「きん」と読めば良い雰囲気ですが、「かね」と読んでしまうと、不透明な政治資金など後ろ暗いものを感じてしまい、あまり良い印象にはなりませんね。

○　○　○

しかし27回のうち4回はいかにも多すぎます。たくさんの漢字があるのだから一度栄冠を勝ち取った漢字は対象から外してもらうよう提案します。そのほうが新鮮味があって良いと思いますが、皆さんはいかがでしょうか。

ということで、私も恒例(笑)の今年の漢字を考えてみました。そして即座に「転」が思い浮かび、決定しました。自分本位の狭い世界での思いでしかなく、私事で恐縮ですが、おつきあいください。

20年以上住み慣れた事務所から新しいところへ想定外の移「転」をしたこと、また転倒しないことが自慢だったのに「転」んでしまったために病院に行く気になり、重大な欠陥が見つかったこと。この二つはとても大きな出来事でした。

○　○　○

「転」に決めるとすぐに四字熟語の有為転変を思い出しました。「世の中のすべての現象や存在は常に移り変わるものであって、決して一定しているものではない。またこの世が無常で、はかないものであるたとえ」と教えられたことがあります。

この2年を振り返ると、新型コロナウイルスによって確かに私たちの日常は変わってしまいました。仕事の面をはじめとして、日々の暮らし、趣味や教養、娯楽などあらゆる分野で、これまで当たり前、と思っていたことがそうではなくなってしまったのです。その結果、誰しもがなんらかの不自由を強いられています。

かつて収束ではなく終息が望みと書きましたが、コロナが完全に消えることは期待できそうにありません。今はアフターコロナではなく、ウィズコロナをどう生きるかを最優先に考えようと思います。

有為転変の意味の後半にある「無常、はかなさ」は、今の時代に最も似合う言葉のような気がしています。